



第25回夏季デフリンピック競技大会 東京2025

静岡県 の開催記録



発行/静岡県 スポーツ・文化観光部 スポーツ振興課 〒420-8601 静岡県静岡市葵区追手町9-6

令和8年3月発行

※本誌に掲載されている記事、写真等の無断掲載、複製、転載は固くお断りします © Shizuoka Prefecture. All Rights Reserved.

東京2025デフリンピック 開催までの道のり 1924▶▶2025

大会全体のあゆみ

静岡県のあゆみ

1924 第1回国際サイレント競技大会開催
【International Silent Games】(フランス/パリ)
国際サイレントスポーツ委員会発足(CISS) (後のICSD)

1965 第10回夏季国際サイレント競技大会開催(アメリカ/ワシントン)
日本初参加(7名)

1969 第11回夏季世界ろう者競技大会(ユーゴスラビア/ベオグラード)
大会名称を「The World Games for the Deaf」
(世界ろう者競技大会)に変更

2000 IOCによって「デフリンピック」の名称使用を承認

2001 第19回夏季デフリンピック競技大会(イタリア/ローマ)
大会名称を「World Summer Games of the Deaflympics」に変更

2022【9月】
ICSD総会にて2025年デフリンピックの東京開催が決定
自転車競技(ロード、MTB)会場は
日本サイクルスポーツセンター(伊豆市)としてプレゼン

2025年デフリンピックの東京開催が決定



2023【9月】
大会エンブレム決定

2024【11月】
大会ボランティア募集開始

【6月】
セッションスケジュール公表

【7月】
日本代表選手団員決定

日本選手団結団式



2023【10月】 静岡県2年前イベント開催
(ジャパン・マウンテンバイク・カップ内)

2024【8月】 学校観戦校募集開始
【11月】 静岡県1年前イベント開催

2025【1月】 手話サポーター1期生養成(～2月)

【2月】 自転車競技日本代表内定選手発表

【6月】 手話サポーター2期生養成(～8月)
観戦校向け出前授業実施(～11月)

【8月】 静岡県100日前イベント開催
カウントダウン Monument お披露目

【10月】 透明翻訳ディスプレイを
会場周辺観光案内所に設置
静岡県ゆかりの選手知事表敬訪問
PRカー 静岡県内巡回

2025年11月 東京2025デフリンピック開催

INDEX

東京2025デフリンピック 開催までの道のり・目次 …… 2
 東京2025デフリンピック 大会概要 …… 4
 自転車競技 概要 …… 6
 静岡県の取組 —機運醸成— …… 8
 静岡県の取組 —学校観戦— …… 10
 静岡県の取組 —手話普及・情報保障—
 (公社)静岡県聴覚障害者協会の取組 …… 12
 地域ろうあ団体等の取組 …… 14
 伊豆市の取組 …… 15
 浜松市の取組 …… 16

静岡県開催 自転車競技
 スプリント …… 18
 ポイントレース …… 19
 個人タイムトライアル …… 20
 個人ロードレース …… 21
 クロスカン트리ショートトラック …… 22
 クロスカン트리オリンピック …… 23
 静岡県ゆかりの選手の活躍 …… 24
 大会後の取組 …… 26
 開催実績 …… 27



自転車競技日本代表内定選手発表



観戦校向け出前授業実施



100日前イベント



カウントダウン Monument お披露目



静岡県ゆかりの選手知事表敬訪問



PRカー 静岡県内巡回



東京2025デフリンピック 大会概要

デフリンピックとは

きこえない・きこえにくい選手のための国際総合スポーツ大会

デフ (Deaf) とは、英語で「きこえない人」という意味。

国際ろう者スポーツ委員会 (ICSD) が主催し、オリンピック同様、夏と冬にそれぞれ4年に1度開催されている。

第1回は1924年フランス・パリで開催され、東京2025デフリンピックは100周年の記念すべき大会であり、日本では初めての開催である。

大会ビジョン

- 01 デフスポーツの魅力や価値を伝え、人々や社会とつなぐ
- 02 世界に、そして未来につながる大会へ
- 03 “誰もが個性を活かし力を発揮できる”共生社会の実現

大会基本計画

- 正式名称** 第25回夏季デフリンピック競技大会 東京2025
25th Summer Deaflympics Tokyo 2025
- 開催期間** 2025年11月15日(土)～26日(水)
- 参加国** 70～80か国・地域
- 選手数** 約3,000人
- 競技数** 21競技

卓球、陸上、ハンドボール、バレーボール、バスケットボール、ビーチバレーボール、テニス、水泳、ゴルフ、柔道、空手、射撃、テコンドー、バドミントン、レスリング(フリースタイル・グレコローマン)、ボウリング、オリエンテーリング、自転車(ロード・マウンテンバイク)、サッカー

東京2025デフリンピック公式マスコット・応援隊

東京2025デフリンピック公式マスコットは、東京都のスポーツ推進大使である「ゆりーと」。また、各自治体等のキャラクターによる「東京2025デフリンピック応援隊」も結成され、各地での大会広報や気運醸成に協力して取り組んだ。



東京2025デフリンピック公式マスコット「ゆりーと」



東京2025デフリンピック応援隊「ふじっぴー」

大会エンブレム

東京2025デフリンピック大会エンブレム



国内で唯一の聴覚障害者・視覚障害者のための大学である、国立大学法人筑波技術大学の学生が制作。デフコミュニティの代表的なシンボルである「手」を表し、デフリンピックを通して競技と話題に触れ、互いの交流やコミュニティが「輪」のように繋がった先には、新たな未来の花が咲いていくことを表現。花は桜の花弁をモチーフとした。

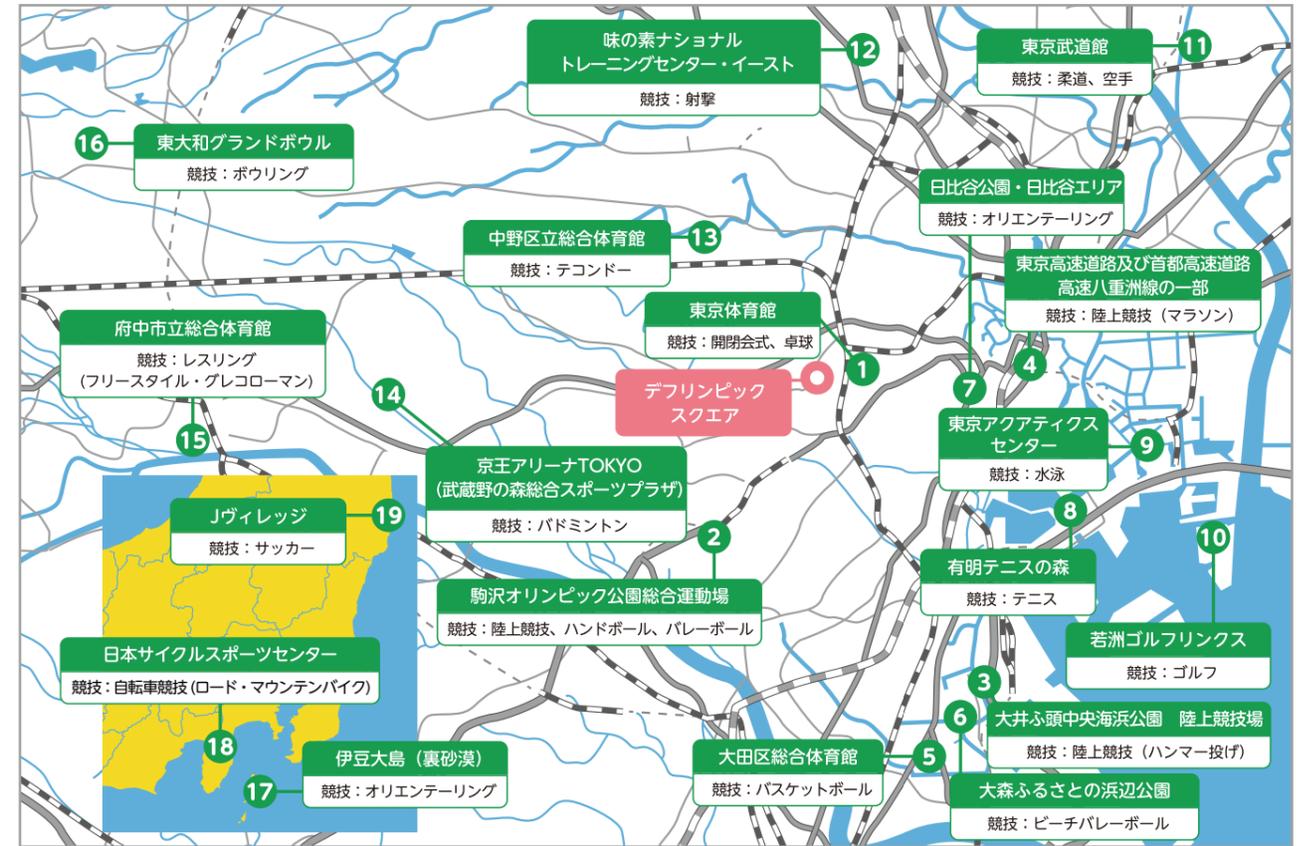
メダル

メダルデザインは、全国約8万人の小・中・高校生(年齢相当含む)の投票により選ばれた。折り紙で作った鶴が描かれており、選手が活躍し、大きく羽ばたいていくことを願ったデザイン。



競技会場

主に東京都内で開催されたほか、静岡県(自転車)と福島県(サッカー)で開催された。



提供：一般財団法人全日本ろうあ連盟

視覚による情報保障

デフリンピックでは、スタート音や審判の笛などがきこえないという状況を補うため、フラッシュランプやフラッグなど様々な「目」で分かる工夫が行われている。



手話言語通訳でコミュニケーション



ランプの光でスタートを知らせる



審判の合図は笛だけではなく旗も

主なルール

- 出場するには裸耳の聴力レベルが55dB(普通の会話がきこえにくい)以上である必要がある。
- 公平性を保つため、補聴器や人工内耳を使用することは禁止されている。
- 審判などの試合進行上のコミュニケーションには国際手話※が使われる。
- 競技のスタート合図や審判の声を手話などで表現すること以外は、オリンピックと同じルールで行う。

※国際手話：日本には日本の手話が、アメリカにはアメリカの手話があるように、手話言語は国によって異なる。世界のろう者が集まるイベントでは、共通のコミュニケーションツールである国際手話が使われる。

自転車競技 概要

東京2025デフリンピックでは、日本サイクルスポーツセンター（伊豆市）でロードとマウンテンバイクの2競技・6種目（男女別）が行われた。

自転車競技の概要と見どころ

ロード Cycling Road



4種目を男女別で行う。長距離を走るロードレースでは、平均時速40kmを超え、下りでは時速90kmで駆け抜ける。

11/17 月 sprint

スプリント

2～4選手が同時にスタートして先着した選手が勝ち。予選は、最後の200mのタイムを競い、本戦では、2周で競う。ゴール手前の爆発的なスピードは圧巻。



11/18 火 points race

ポイントレース

一斉スタートし、2.5km（5周）ごとの順位によりポイントが加算、男子30km（60周）、女子20km（40周）での合計点を競う。2.5kmごとの熾烈な争いがポイント。



11/20 木 individual time trial

個人タイムトライアル

男子25km（5周）、女子15km（3周）を時間差で1人ずつスタートし、それぞれの完走タイムを競う。空気抵抗を少なくするため、特殊な構造の自転車やウエア、ヘルメットを使用。



11/22 土 individual road race

個人ロードレース

一斉スタートで、男子100km（20周）、女子50km（10周）の着順を競う。先頭選手が空気抵抗をうけるため、温存する選手をつくるなど個人戦だがチームプレーも見所。



(MTB) マウンテンバイク Mountain Bike



一斉スタートでアップダウンのあるオフロードコースを周回し、着順を競う。

11/24 月・祝 cross-country short track

XCC（新種目） （クロスカンントリー・ショートトラック）

1周0.8kmの比較的短距離のコースを周回して着順を競う。最初から最後まで全力勝負のスプリント力がカギを握る。XCCはデフリンピックでは初採用の新種目。

11/25 火 cross-country olympic

XCO （クロスカンントリー・オリンピック）

1周3.16kmを周回して着順を競う。会場は、東京2020オリンピックでも使用された難関コースで、急坂や急カーブ、段差が設けられ、高い技術と体力が求められる。

自転車競技の会場

日本サイクルスポーツセンター（静岡県伊豆市大野1826番地）

会場となった日本サイクルスポーツセンターは、全日本選手権が開催されている国内トップレベルの施設。選手と観客の距離が近いことが特徴で、デファスリート達が静寂を切り裂き走り抜ける様は圧巻。競技中の手話による戦略のやり取りが勝負を決めることもある。



提供：日本サイクルスポーツセンター

5kmサーキット

自転車競技/ロード
全長5,150m・高低差約100m、道路の幅員8m～10m、斜度-10%～12%、クローズドな本格的自転車専用ロードコース。豊かな自然環境を生かすため、電線は地中に埋設しガードレールの代わりに樹木が植えられており景観に配慮したコース。

伊豆MTBコース

自転車競技/マウンテンバイク
全長約4km・高低差約150mのオフロードコース。自然環境を最大限に生かしたコースには、富士山を眺めるビューポイント、日本の伝統文化や伊豆にちなんだ名前が付けられたポイントがある。急坂や岩場などを利用した、走行に高度な技術を必要とする、世界トップレベルの難コース。



自転車競技の日本代表選手

■出場種目		ロード	MTB
ス	ポイントレース	個人タイムトライアル	XCC
ポ		個人ロードレース	XCO

男子・ロード

 <p>中学時代からツール・ド・フランスを夢見る知略派</p> <p>郷原 輝久 ごうはら てるひさ</p> <p>種目 ス ポ タ ロ</p>	 <p>チーム最年少 トライアスロン 仕込みの爆発力</p> <p>田中 航太 たなか こうた</p> <p>種目 ス ポ ロ</p>	 <p>チーム最年長 4大会出場の 頼れる走り</p> <p>早瀬 憲太郎 はやせ けんたろう</p> <p>種目 ス ポ タ ロ</p>	 <p>フィジカル No.1 フィールドホッケーで 鍛えた無尽蔵の体力</p> <p>藤本 六三志 ふじもと むさし</p> <p>種目 ス ポ タ ロ</p>
---	--	--	---

 <p>国内最高峰で 長年活躍する エリートライダー</p> <p>箭内 秀平 やない しゅうへい</p> <p>種目 XCC XCO</p>	 <p>デフリンピック MTB競技 3大会連続メダリスト</p> <p>早瀬 久美 はやせ くるみ</p> <p>種目 ポ タ XCC XCO</p>	 <p>デフリンピック通算 4つのメダルを獲得 したレジェンド</p> <p>箕原 由加利 みの はら ゆかり</p> <p>種目 ス ポ タ ロ</p>	 <p>攻めまくる アグレッシブな走り が最大の魅力</p> <p>北島 湊 きたじま みなと</p> <p>種目 XCC XCO</p>
--	--	--	--

静岡県の取組 — 機運醸成 —



県では、デフリンピックの認知度向上及びデフスポーツ・手話言語の普及、障害への理解促進を図るため、2年前から県主催での機運醸成イベントの開催、各種イベントと連携した出展、SNSでの広報等を実施した。

2年前イベント

同会場で行われたジャパン・マウンテンバイク・カップ内でろう者等の観客招待、手話ボランティアの配置、中継映像への手話MC試験導入などを行った。招待者にはアンケートを行い、効果検証した。

- 日時/2023年10月22日(日) 9:30~15:30
- 場所/日本サイクルスポーツセンター(伊豆市)



1年前イベント

商業施設で自転車競技や静岡県ゆかりのデフアスリートによるトークショーや、バーチャルサイクリング、手話体験などの体験ブースを実施。多くの方に来場いただいた。

- 日時/2024年11月2日(土) 10:00~17:00
- 場所/三井ショッピングパークらぼーと沼津(沼津市)



100日前イベント ~カウントダウンモニュメント初お披露目~

商業施設でステージイベントや体験ブースによる100日前イベントを開催。東京都とも連携し、都が主催する「東京2025デフリンピックカウントダウンツアー」出発式及び都が制作したカウントダウンモニュメントのお披露目も実施。



自転車競技や静岡県ゆかりのデフアスリートによるトークショーや、JICA静岡県デスクともコラボした世界の手話に関するトークショーなどのステージイベント、ワットバイク・手話・VR等の各種体験ブースも行った。会場では来県する自転車競技選手団へのメッセージを記入いただき、集まったメッセージは大会期間中、選手宿泊ホテルに掲出した。

- 日時/2025年8月3日(日)10:00~16:00
- 場所/サントムーン柿田川(清水町)



各種イベントでの出展

プロスポーツチームやふじのくにパラスポーツ推進コンソーシアムと連携して、イベント出展を行った。



東京2025デフリンピック応援隊「ふじっぴー」

各自治体等のキャラクターによる「東京2025デフリンピック応援隊」が結成され、静岡県イメージキャラクター「ふじっぴー」も2024年6月に任命。各種イベントやSNSでPRした。



各媒体でのデフリンピックPR

- 自転車競技開催PRのぼりやパンフレットを県独自に作成・配布
- 100日前イベントを行ったサントムーン柿田川では自転車競技協賛事業として大型タペストリーや屋外ビジョン告知などを実施
- 大会直前には伊豆箱根鉄道駿豆線や伊豆箱根バスで広告掲出(一部自転車競技協賛事業)



静岡県の取組 — 学校観戦 —



県では、世界のデフアスリートが集うデフリンピックをより多くの若い世代に観戦してもらうことを目的に、開催地周辺の小中学校や特別支援学校を対象に観戦招待及び事前の出前授業を実施した。

出前授業

学校観戦に先立ち、参加校のうち希望校を対象に地元聴覚障害者及び手話通訳者による出前授業を実施した。なお、沼津聴覚特別支援学校においては、デフサッカー日本代表の高橋遥佳選手（県西部在住）を講師に迎え、デフサッカー体験を実施した。



- 対象校・人数／9校 961人
- 内容／デフリンピックの歴史・特徴や東京大会の概要、聴覚障害への理解、手話言語講座・サインエール講座 等

授業日	学校名	学年	人数
6月12日(木)	伊豆の国市立大仁北小学校	小4	36
6月17日(火)	静岡県立沼津聴覚特別支援学校	幼稚部～高等部	22
7月3日(木)	伊豆市立土肥小中一貫校	1～9年生	90
7月3日(木)	伊豆の国市立葦山中学校	中2	172
7月10日(木)	伊豆市立伊豆中学校	中1～3	424
9月16日(火)	伊豆の国市立葦山南小学校	小4	57
9月22日(月)	静岡県立沼津特別支援学校	高2	23
10月3日(金)	伊豆市立修善寺東小学校	小4～6	44
11月4日(火)	伊豆市立天城小学校	小4～6	93

観戦招待

ロード競技の平日開催種目において、各学校から競技会場まで県がバスを手配し、会場周辺市町の小中学校や特別支援学校を観戦招待した。会場では、出前授業で学習したサインエールや応援うちわを用いてデフアスリートを応援した。

生徒の感想

- 目の前を駆け抜けるスピードに驚いた。迫力があつた。
- 国際的なスポーツ大会を生で見ることができて貴重な体験だった。
- 出前授業で覚えたサインエールを使って応援できて楽しかった。

日付・実施種目	学校名	学年	人数
11月17日(月) 男女 スプリント	伊豆市立伊豆中学校	中1～3	468
	静岡県立沼津特別支援学校	高2	34
	伊豆の国市立葦山南小学校	小4	61
11月18日(火) 男女 ポイントレース	静岡県立沼津聴覚特別支援学校	幼稚部～高等部	54
	伊豆市立土肥小中一貫校	1～9年生	113
	伊豆の国市立葦山中学校	中2	186
11月20日(木) 男女 個人タイム トライアル	伊豆市立天城小学校	小4～6	101
	伊豆市立修善寺南小学校	小4～5	98
	伊豆市立修善寺東小学校	小4～6	49
	伊豆の国市立大仁北小学校	小4	44
	伊豆市立中伊豆小学校	小4～6	79

- 観戦校・人数／11校 1,287人（うち児童・生徒1,167人、引率者120人）
- ※別途、函南町立東中学校1年生約160名が校外学習として11月25日(火)観戦



6月12日(木) 大仁北小学校



6月17日(火) 沼津聴覚特別支援学校



7月3日(木) 土肥小中一貫校



7月3日(木) 葦山中学校



7月10日(木) 伊豆中学校



9月16日(火) 葦山南小学校



9月22日(月) 沼津特別支援学校



10月3日(金) 修善寺東小学校



11月4日(火) 天城小学校



静岡県の取組 — 手話普及・情報保障 —



県では、若い世代への手話の普及や来訪する聴覚障害者等への対応を目的として、手話サポーターの養成や透明翻訳ディスプレイの試験導入を行った。

手話サポーター養成

デフリンピックの機運醸成及び若年層への手話の普及を目的として、高校生・大学生を中心とした手話サポーター養成講座を開講し、講座を修了した43人を手話サポーターとして認定した。

手話サポーターには自転車競技当日のほか、100日前イベント等において「手話であいさつ」運動に参加いただいたことにより、県民の方々への手話の普及に寄与したほか、手話サポーター自身の手話への興味関心の増加につながった。



養成講座



イベントでの活動

透明ディスプレイ設置

県では、聴覚障害者等への対応(情報保障)やデフリンピックのPRを目的に、開催地周辺の観光案内所4箇所に透明翻訳ディスプレイを期間限定で設置した。設置期間中は外国人との観光案内にも利用された。

- 運用期間 / 2025年10月1日～11月30日
- 設置場所 / 三島駅、伊豆長岡駅、伊東駅、道の駅 伊豆ゲートウェイ函南に隣接する観光案内所



伊豆長岡駅前観光案内所



道の駅「伊豆ゲートウェイ函南」

(公社) 静岡県聴覚障害者協会の取組



静岡県聴覚障害者協会では、1年前イベントの開催や県事業への協力、全日本ろうあ連盟スポーツ委員会が実施するデフリンピックキャラバンイベント等への協力など、機運醸成に係る取組を行った。

開催1年前イベント

デフスポーツ・サポーターしずおか主催により、講演会を開催。第一部は、デフリンピック・自転車競技概要についての説明や、映画「みんなのデフリンピック」の上映、第二部では佐藤正樹選手、日本ろうあ自転車競技協会の宮田氏、デフリンピック帯同手話通訳者等によるパネルディスカッションを実施した。61名が参加し、デフリンピックについて理解を深めた。

- 日時 / 2024年10月26日(土)
- 場所 / はーとびあ清水(静岡市)



キャラバンイベント(開催1か月前イベント)

国内におけるデフリンピックの周知・広報を行ない、デフスポーツの気運醸成を図ることを目的に開催。デフリンピック紹介パネル展示、手話言語体験ブース、バーチャルサイクリング体験ブース、サインエール指導、選手への寄せ書き、ビデオメッセージ収録、デフクラウンによるショーを実施し、約300名が来場した。

- 日時 / 2025年10月12日(日)10:00～16:00
- 場所 / 三井ショッピングパーク ららぽーと磐田(磐田市)



(公社) 静岡県聴覚障害者協会の取組

PRカー県内巡回イベント

全日本ろうあ連盟が主催し、大会開催都市の東京都を目指して2台のラッピングカーが全国各地を巡回。静岡県は、10月16日の県庁でのお披露目を皮切りに21日まで県内各地を巡回した。訪問先では、デフリンピックパネルや大会メダルレプリカ、人気漫画とデフリンピックのコラボパネルの展示などを実施した。6日間で約1,100名が参加した。

- 日程 / 2025年10月16日(木)～21日(火)



三重県から静岡県へ!

10/16(木)

1 静岡県庁 (静岡市)



2 静岡県総合社会福祉会館 シズウエル(静岡市)



3 ありんこの里 (静岡市)



10/17(金)

4 修善寺生きいきプラザ (伊豆市)



10/18(土)

5 ウェルディ長泉 (長泉町)



10/19(日)

6 ふじさんめっせ (富士市)



7 富士宮市総合福祉会館 (富士宮市)



10/20(月)

8 浜松市役所 (浜松市)



9 浜松聴覚特別支援学校 (浜松市)



10 遠州みみの里 (浜松市)



10/21(火)

11 沼津聴覚特別支援学校 (沼津市)



12 静岡聴覚特別支援学校 (静岡市)

静岡県から岐阜県へ!



地域ろうあ団体等の取組



伊豆ろうあ協会

■デフリンピックPR動画作成への協力

伊豆市による「大会PR手話動画」に、伊豆市聴覚障害者協会、かえて友の会が参加した。大会1年前の2024年10月～大会期間中まで市内3か所で放映し、大会をPRした。

■伊豆市社会福祉大会にて「手話カフェ」開催

来場者に「サインエール」をPR、市企画のデフリンピック自転車競技選手壮行会にも参加した。

■デフリンピック観戦ツアー

大会最終日に伊豆市聴覚障害者協会、手話サークル「かえて」でデフリンピック観戦ツアーを実施、28名が参加した。海外選手等との交流は貴重な経験となった。



富士ろうあ協会

■富士宮市 手話言語条例制定10周年イベント

富士宮市手話言語条例制定10周年を迎えた富士宮市において、「咲む」の上映会、手話コーナー、手話で交流する手話カフェ、クイズラリーを開催した。1か月後に迫る東京デフリンピックの開催にあたり、「デフリンピックってなに?」「デフリンピックを知らう!」と展示物を作成し、来場者への啓発を行なった。

- 日時/2025年10月19日(日)
- 会場/富士宮市総合福祉会館
- 参加者/約120名



静岡市ろうあ協会

■講演「デフリンピックとは?」

元デフバレー日本代表の信田光宣氏を講師に迎え、「デフリンピックとは何か」を分かりやすく解説いただいた。デフリンピックがパラリンピックよりも古い歴史を持つことに驚かされるとともに、6回にわたる自身の出場経験から語られる様々な裏話により、参加者はデフリンピックへの理解と親近感を深めた。

- 名称/静岡市ろうあ協会定期総会
- 日時/2025年4月13日(日)
- 会場/はとびあ清水6階 多目的ホール ●参加者/93名



手話サークルひまわり(小笠・菊川昼)

■デフリンピック観戦ツアー

レンタルマイクロバスで観戦ツアーを企画。スタート付近で手作り応援うちわや国旗、応援ボードを振りながら、太鼓のリズムに合わせてサインエール送った。スピードある自転車競技を間近で感じ、その迫力と選手の真剣な表情に、応援する側も熱くなった。日本代表、海外の選手と写真を撮るなど交流もできた。

- 日時/2025年11月20日(木)
- 会場/日本サイクルスポーツセンター ●参加者/22名



磐田ろうあ協会・豊田手話サークル藤

■デフリンピック観戦ツアー

日本開催のデフリンピックを現地で応援しようとバスツアーを企画。移動中もデフリンピックにまつわるクイズで盛り上がり、交流のひとつとなった。現地では、選手が目の前を駆け抜ける迫力あるレースに夢中で応援し、特にゴール直前の藤本六三志選手のメダル争いでは、会場一体となって声援を送った。レース後には選手とタッチを交わす場面もあり、笑顔があふれていた。参加者からは「メダル獲得の瞬間を見られて感動した」「一生に一度かもしれないデフリンピックを体験できてよかった」などの声があり、大変意義のある体験となった。

- 日時/2025年11月22日(土)
- 会場/日本サイクルスポーツセンター ●参加者/約40名



浜松ろうあ協会

■デフリンピアン講演

女子サッカー日本代表の高橋遥佳選手を講師に招き、講演会を実施した。競技経験やデフリンピックへの思いが語られ、参加者の関心を高めた。

- 名称/浜松ろうあ者大会 ●日時/2024年4月28日(日)
- 会場/曳馬協働センター ●参加者/63名

■デフリンピック観戦ツアー

11月18日(火)のポイントレースにおいて、デフリンピック応援バスツアーを実施、33名が参加した。

■選手報告会

新年会の中で高橋選手によるデフリンピック報告会を開催した。45名が参加。銀メダルの披露や交流を通じて参加者とともにその成果を喜んだ。

- 名称/浜松ろうあ協会新年会・デフリンピック報告会
- 日時/2026年1月11日(日)
- 会場/浜松市福祉交流センター ●参加者/約45名

伊豆市の取組



伊豆市では「デフリンピック」の認知度を高めること、共生社会の実現のための一助とすることを目的に、2024年度から市独自の機運醸成や手話普及のための動画撮影を実施した。

手話動画の撮影・放映

デフリンピックの啓発と共生社会の実現に向けた手話普及を目的に、聴覚障害者協会等、各種団体に協力いただき、総勢1,700名ほどの方に手話による応援動画の撮影に参加いただいた。

撮影した動画は、修善寺駅のほか、修善寺生いきプラザ、伊豆市役所別館・中伊豆支所のデジタルサイネージにて放映を行った。

- 期間 動画撮影/2024年9月から
- 放映/2024年11月から1年間



50日前イベント

デフスポーツや手話等のろう者の文化、障害への理解促進を図り、共生社会実現への一助とすることを目的に、伊豆市出身で、デフバレーボールの植野正樹選手を招聘し、これまでの体験や経験談等のトークショーと、小中学生を対象としたデフバレーボール体験会を実施した。また、2025年8月に行われた「全国高校生の手話によるスピーチコンテスト」に出場した伊豆市在住の高校2年生、永田千怜さんからサインエールや手話を学ぶ教室を行った。

- 日時/2025年10月5日(日) ●場所/伊豆中学校体育館

デフリンピック自転車競技 日本代表選手 壮行会

「東京2025デフリンピック」の自転車競技日本代表選手に向け、伊豆総合高校の生徒をはじめとする市民の皆さんが桜の花びらに応援メッセージを描いた満開の『応援フラッグ』を贈るとともに、壮行会会場の皆さんからサインエールで応援を届けた。

- 日時/2025年10月11日(土)
- 場所/修善寺生いきプラザ 市民文化ホール



伊豆市PRブースの出展

大会開催日の2025年11月22日(土)、24日(月・祝)に競技会場において、伊豆市のPRブースを出展した。22日(土)は伊豆市の原木しいたけを炭火焼きし、試食・販売を実施した。海外選手にも大変好評で、持ち込んだ生しいたけは、昼過ぎに完売した。24日(月・祝)は、伊豆市赤十字奉仕団による豚汁を販売。200人分が即完売した。

- 日時/2025年11月22日(土)、24日(月・祝)
- 場所/日本サイクルスポーツセンター

浜松市の取組



浜松市では、ブラジル共和国のホストタウンとして、ブラジル選手団の事前合宿受入を実施。受入に先立ち、事前合宿及びデフリンピック大会の認知度向上を目的とした機運醸成イベントを開催した。事前合宿期間中においては、選手団の支援に加え、共生社会実現に向け、市民交流イベントの開催や、市内高校部活動等協力のもと練習交流を実施した。

ブラジル選手団事前合宿概要

- 選手団人数/81名
- 競技/バレーボール、ハンドボール、バドミントン、柔道、ビーチバレーボール、陸上
- 滞在期間/2025年11月9日(日)～14日(金)
※うち10日(月)～13日(木)に練習実施
- 練習会場/浜松アリーナ、雄踏総合体育館、江之島ビーチコート、常葉大学有玉グラウンド



バレーボール



ハンドボール



バドミントン



柔道



ビーチバレーボール



陸上



機運醸成イベント ～東京2025デフリンピック BOA! ブラジル選手団応援フェスタ～

事前合宿及び本大会の認知向上、共生社会への理解促進を目的に、機運醸成イベントを実施。当日は、「デフ陸上スタート体験ブース」や「サインエール」を交えたゲームコーナーなどを実施し、500名以上が来場した。

- 日時/2025年8月23日(土)13:00～16:00
- 場所/浜松市ギャラリーモールソラモ



歓迎式典

歓迎式典では、「おもてなし」の心を示し、温かい歓迎の意を表すとともに、折り紙や和太鼓など、日本文化に触れあうアトラクションも実施した。

- 日時/2025年11月10日(月)
18:00～19:00
- 場所/ホテルコンコルド浜松



市民交流イベント ～東京2025デフリンピック ブラジル選手団大交流会 in HAMAMATSU～

市民交流イベントを2会場で開催。ソラモ会場では、バレーボール、ビーチバレーボール、陸上の選手が集まり、聴覚特別支援学校やブラジル人学校の児童、生徒との交流やサンバパフォーマンスなど実施された。イオン会場では、ハンドボール、バドミントン、柔道の選手が参加し、サインエールの紹介、体力測定チャレンジ等が実施され、大いに盛り上がった。

- 日時/2025年11月12日(水)14:00～17:00
- 場所/浜松市ギャラリーモールソラモ、イオンモール浜松市野



写真提供:CBDS(撮影:Matsushita Takuma) 浜松市写真連絡協議会

SPRINT

スプリント 11/17日【男子・女子】予選 9:00~11:00 本戦 11:30~15:30



- 男子
- ① WALLACE Jayson Andrew(アメリカ)
 - ② SONG Jiaojiao(中国)
 - ③ GAO Xiang(中国)
- 7位 郷原 輝久 19位 藤本 六三志
29位 田中 航太 34位 早瀬 憲太郎

- 女子
- ① BONDAREVA Alisa Viktorovna(中立選手)
 - ② WANG Qiqi(中国)
 - ③ TOPCHANIUK Yelisaveta(ウクライナ)
- 9位 養原 由加利



POINTS RACE

ポイントレース 11/18日【男子】14:00~15:00 【女子】13:00~13:45



- 男子
- ① ROZANOV Dmitry Andreevich(中立選手)
 - ② KO Byungwook(韓国)
 - ③ SOARES Andre(ポルトガル)
- 7位 藤本 六三志 14位 郷原 輝久

- 女子
- ① MENG Yan(中国)
 - ② WANG Qiqi(中国)
 - ③ METZ Bianca(ドイツ)



column デファスリートに届ける新しい応援『サインエール』

きこえる・きこえないにかかわらず、全ての人がデファスリートに想いを届けられるよう、東京2025デフリンピックに向けて開発された「サインエール」。県内においても、各種イベントや学校観戦の出前授業でPR。大会中は、(公社)静岡県聴覚障害者協会の協力により太鼓などでサインエールを先導、学校観戦をはじめ多くの観客が一体となって応援した。出場した選手からは「分け隔てなく、見て分かる形で応援してもらえて感動した。」とのコメントがあった。



会場でサインエールを送る学校観戦のみなさん

column 競技会場での情報保障

大会時には、全競技会場で、選手・観客への情報保障やサポートのため、透明ディスプレイやタブレットを活用した多言語テキストによる案内などが行われた。また、指さして意思疎通を図れる「ユニバーサル・チャットボード」が開発され、選手関係者、大会スタッフ、ボランティア、会場周辺飲食店等に配布・活用された。自転車競技会場では、大型ビジョンに中継映像と共に解説音声の日本語・英語字幕が、配信映像には日本語・国際手話が付き、多くの観客が観戦を楽しんだ。



individual time trial

個人タイムトライアル 11/20(木) 【男子】9:00~12:30 【女子】13:00~14:30



- 男子
- 1 ROZANOV Dmitry Andreevich(中立選手)
 - 2 SOARES Andre(ポルトガル)
 - 3 KO Byungwook(韓国)
- 11位 藤本 六三志
26位 早瀬 憲太郎
28位 郷原 輝久

- 女子
- 1 HOI Long(マカオ)
 - 2 METZ Bianca(ドイツ)
 - 3 WANG Qiqi(中国)
- 16位 義原 由加利
19位 早瀬 久美



早瀬 憲太郎 選手



早瀬 久美 選手



individual road race

個人ロードレース 11/22(土) 【男子】9:00~12:30 【女子】13:00~15:00



- 男子
- 1 ROZANOV Dmitry Andreevich(中立選手)
 - 2 GAVRILOV Egor(中立選手)
 - 3 藤本 六三志(日本)

- 女子
- 1 MENG Yan(中国)
 - 2 WANG Qiqi(中国)
 - 3 BAVYKINA Elizaveta(中立選手)
- 11位 義原 由加利



©(公財)東京都スポーツ文化事業団



©(公財)東京都スポーツ文化事業団



競り勝って見事銅メダル獲得

藤本 六三志 選手



©(公財)東京都スポーツ文化事業団

義原 由加利 選手



©(公財)東京都スポーツ文化事業団



©(公財)東京都スポーツ文化事業団

column 大会ボランティアの声 — 中川みゆきさん —

私は、デフリンピック自転車競技のボランティアとして参加し、コース沿いでの誘導や安全確認など行いました。日本語や国際手話などコミュニケーションを通じたやり取りは、言葉を超えて心が通じ合う瞬間の連続でした。

風を切って駆け抜ける選手の姿は、困難を乗り越える力と挑戦する勇気そのもので、胸が熱くなりました。準備や運営の大変さも、仲間と力を合わせて乗り越えたことで大きな達成感に変わり、この経験は「人と人がつながる力」の素晴らしさを教えてくれました。



ボランティアで活躍する中川さん

column 静岡県主催にぎわいイベント



ランバイク大会

県では、地域一体となって大会を盛り上げ多くの方に来場いただけるよう、休日の競技日に自転車競技会場内でにぎわいイベントを開催した。周辺自治体にもご協力いただきキッチンカーや地元特産品・授産品販売、手話であいさつを運動・スポーツ体験ブースを設置し、体験ブースを3つ巡るスタンプラリーも実施、多くの来場者でにぎわった。また、11月22日には未就学児対象のランバイク大会も開催した。



にぎわいイベントの様子

XCC Cross-Country Short Track

クロスカントリーショートトラック 11/24(月祝) 【男子】14:00~14:45 【女子】13:00~13:45



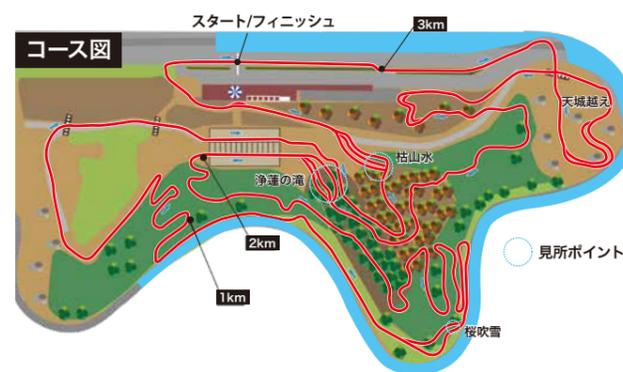
- 男子**
- ① KUDRIN Aleksei Konstantinovich (中立選手)
 - ② BOZHKO Aleksei Vladimirovich (中立選手)
 - ③ ARCISZEWSKI Pawel (ポーランド)
- 9位 箭内 秀平

- 女子**
- ① PORETSKOVA Anna (中立選手)
 - ② TOPCHANIUK Yelisaveta (ウクライナ)
 - ③ KUCZYNSKA Patrycja (ポーランド)
- 9位 早瀬 久美 10位 北島 湊



XCO Cross-Country Olympic

クロスカントリーオリンピック 11/25(火) 【男子】11:15~13:15 【女子】9:00~11:00



- 男子**
- ① KUDRIN Aleksei Konstantinovich (中立選手)
 - ② BOZHKO Aleksei Vladimirovich (中立選手)
 - ③ KLISH John Michael (アメリカ)
- 8位 箭内 秀平

- 女子**
- ① BAVYKINA Elizaveta (中立選手)
 - ② TOPCHANIUK Yelisaveta (ウクライナ)
 - ③ PORETSKOVA Anna (中立選手)
- 4位 北島 湊 7位 早瀬 久美



column 大会公式エリア『FUJISクエア』

自転車競技会場内には、大会期間中、協賛企業や関係者が出展する『FUJISクエア』が登場。東京都によるUC(ユニバーサルコミュニケーション)機器の展示や、協賛企業によるオフィシャルグッズ販売、ロードバイク・マウンテンバイク体験、県においても周辺地域の観光案内等を行った。



FUJISクエア



マウンテンバイク体験

column 静岡県聴覚障害者協会の活動 — 松本拓也さん —



松本さん

静岡県聴覚障害者協会では、大会期間中、自転車競技会場にブース出展しました。楽しんでほしいという思いから、歌舞伎映像の中継や書籍販売、応援グッズの制作・貸出、サインエールの指導などを通して、来場者が一体となって応援できる雰囲気づくりを心がけました。特に私は、遠

方から来日した選手に日本文化を少しでも楽しんでもらいたいという思いから、歌舞伎メイクとサインエールを行いました。観光する時間がない中で「とても嬉しい」と外国選手から声をかけられ、思い出づくりに関わったことを嬉しく思います。



ブース出展の様子

静岡県ゆかりの選手の活躍

静岡県ゆかりの日本代表選手

写真提供：一般財団法人全日本ろうあ連盟



阿部 菜摘

あべ なつみ
競技：サッカー
磐田市拠点



池田 伊吹

いけだ いぶき
競技：水泳
県中部在住



北川 晴子

きたがわ はるこ
競技：ボウリング
県東部在住



酒井 藍莉

さかい あいり
競技：サッカー
静岡市出身



佐藤 正樹

さとう まさき
競技：柔道
県中部在住



袖山 哲朗

そでやま てつろう
競技：ゴルフ
浜松市出身



高橋 渚

たかはし なぎさ
競技：陸上
県東部在住



高橋 遥佳

たかはし はるか
競技：サッカー
県西部在住



辻 結名

つじ ゆうな
競技：ゴルフ
県東部在住



船川 真央

ふなかわ まお
競技：レスリング
静岡市出身



村岡 翼輝

むらおか はやき
競技：水泳
県東部在住



安本 真紀子

やすもと まきこ
競技：陸上
県中部在住

知事表敬訪問

開催までちょうど1ヶ月となる10月15日(水)、静岡県ゆかりの選手10名が知事を表敬訪問した。各選手がデフリンピックに向けた意気込みを語り、知事は「みなさんは私たちにとって大きな誇り。悔いのない大会にしてほしい」と激励した。



競技結果

銀	阿部 菜摘	サッカー女子
	酒井 藍莉	サッカー女子
	高橋 遥佳	サッカー女子
銅	佐藤 正樹	柔道 男子団体戦
	村岡 翼輝	水泳 男子4×100mメドレーリレー
5位	佐藤 正樹	柔道 男子-66kg級
7位タイ	辻 結名	ゴルフ 個人(女子)
8位	辻 結名	ゴルフ 男女混合チーム
	安本 真紀子	陸上 女子10000m
9位	高橋 渚	陸上 女子やり投
10位	安本 真紀子	陸上 女子マラソン
23位タイ	袖山 哲朗	ゴルフ 個人(男子)
出場	村岡 翼輝	水泳 男子50m自由形 水泳 男子100m自由形 ボウリング 女子シングル 水泳 男子50m平泳ぎ 水泳 男子100m平泳ぎ
	北川 晴子	レスリング フリースタイル男子74kg
	池田 伊吹	レスリング グレコローマン男子77kg
	船川 真央	

知事特別表彰の贈呈

静岡県は、東京2025デフリンピックに出場した県ゆかりの選手のうち、メダリスト及び入賞者に対し知事特別表彰を授与した。女子サッカーの酒井藍莉選手は代表で挨拶し、「自国開催は特別なプレッシャーがあったが、県民の声援が力になった。次の大会に向け新たなスタートを切る決意だ」とさらなる飛躍を誓った。



写真提供：(公財)東京都スポーツ文化事業団



大会後の取組

東京2025デフリンピック

静岡県勢選手報告会

静岡県聴覚障害者協会では、熱戦を終えた静岡県勢選手7名からの出場報告や大会ボランティア2名からの活動報告を実施した。他、選手との交流や、選手私物の展示、選手紹介パネル展示、メダルやリストバンドの展示などを行い、県内から約120名が参加した。

- 日時/2026年1月10日(土)13:00~16:00
- 場所/静岡県総合社会福祉会館(静岡市)



デフリンピック特別授業

県では、デフリンピックを機に高まった機運を継続し、デフスポーツや手話言語、聴覚障害への理解促進を図るため、県内6カ所の小中学校で自転車競技出場選手や本県ゆかりの選手を講師に迎えた特別授業を実施した。

授業日	講師	学校名	学年	人数
1月28日(水)	早瀬久美選手	長泉町立長泉小学校	小4	166
1月29日(木)	村岡翼輝選手	富士宮市立黒田小学校	小5	77
2月6日(金)	佐藤正樹選手	川根本町立三ツ星学園	5・6年生	44
2月18日(水)	早瀬憲太郎選手	藤枝市立青島中学校	中1・2	518
2月26日(木)	高橋遥佳選手	湖西市立東小学校	小4~6	71
2月27日(金)	高橋遥佳選手	菊川市立岳洋中学校	中1	134
合計				1,010



ふじのくにパラスポーツ推進コンソーシアム交流会

パラスポーツ推進のため立ち上げた官民連携組織「ふじのくにパラスポーツ推進コンソーシアム」の令和7年度交流会では、(公財)東京都スポーツ文化事業団及び個人ロードレースで銅メダルを獲得した藤本六三志選手による大会報告も実施、約150名が参加した。

- 日時/2026年2月19日(木)14:00~16:00
- 場所/グランシップ(静岡市)



開催実績

参加アスリート **79**カ国・地域 **2,943**人 (男子1,903人/女子1,040人)

実施競技・種目数 **21**競技 **209**種目

- メダル獲得国・地域 **54**カ国・地域
- 世界デフ新記録 **53**件 (2026年1月30日時点)
- デフリンピック新記録 **78**件 (2026年1月30日時点)

日本選手団の活躍 金メダル **16** 銀メダル **12** 銅メダル **23** **過去最多 51**個のメダル獲得
(前回ブラジル大会30個)(うち、静岡県ゆかりの選手 銀1・銅2)

自転車競技実績

参加アスリート

- 自転車2競技合計 **28**カ国・地域 **96**人(男子65人、女子31人)
- ロード競技 **26**カ国・地域 **81**人(男子56人、女子25人)
- マウンテンバイク競技 **18**カ国・地域 **47**人(男子31人、女子16人)

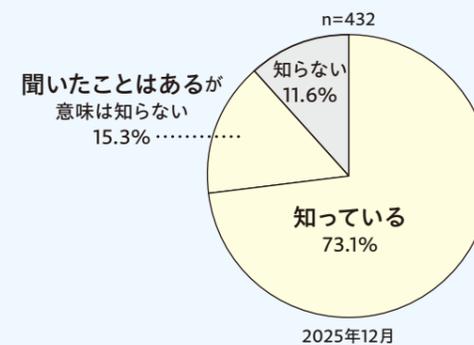
種目別参加選手数・観客数

開催日	11月17日	11月18日	11月20日	11月22日	11月24日	11月25日	合計
競技	ロード				マウンテンバイク		
種目	スプリント	ポイントレース	個人タイムトライアル	個人ロードレース	XCC	XCO	
場所 (日本サイクルスポーツセンター)	5kmサーキット直線コース		5kmサーキット		伊豆MTBコース		
男子出場選手数	44人	48人	44人	50人	25人	27人	5,221人
女子出場選手数	23人	24人	23人	24人	15人	13人	
観客数	972人	733人	556人	1,152人	1,198人	610人	

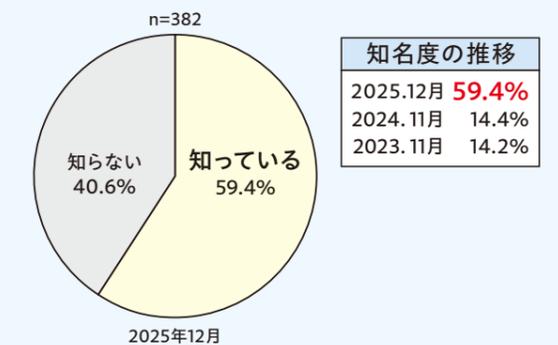
「デフリンピック」県内知名度

(県政インターネットモニターアンケート調査結果)

●「デフリンピック」を知っている、聞いたことがある人



●自転車競技の静岡県開催を知っている人



知名度の推移

2025.12月	88.4%
2024.11月	48.4%
2023.12月	44.3%

知名度の推移

2025.12月	59.4%
2024.11月	14.4%
2023.11月	14.2%